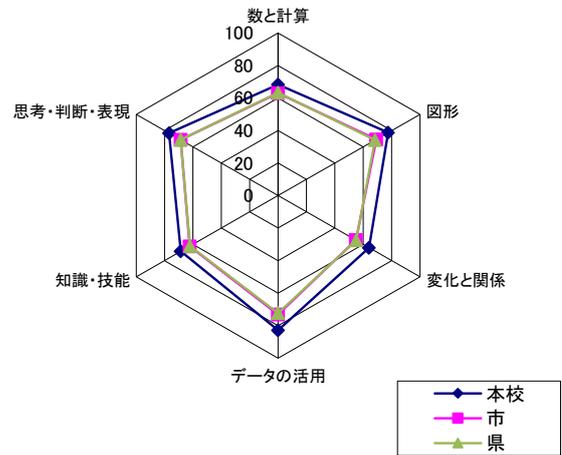


# 宇都宮市立錦小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	63.0	63.3
	図形	77.5	69.2	68.3
	変化と関係	64.1	54.8	55.0
	データの活用	82.8	73.1	72.3
観点	知識・技能	68.6	62.3	62.1
	思考・判断・表現	76.9	68.7	68.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は県や市より高い。</li> <li>○図から数量の関係を読み取り、一つの式で表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が78.4%で県より17.9ポイント上回った。</li> <li>●小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつかで大きさを比べることができるかどうかをみる問題では、正答率が県を9.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きい数や小数のしくみについて正答率が低く、理解が不十分なところが見られた。授業において、数直線を用いながら説明するなど、指導法や教材の工夫・改善を図るとともに、自分の考えをしっかりともち、自信をもって取り組むように支援していく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は県や市より高い。</li> <li>○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を立てることができるかどうかをみる問題では、正答率が8県を11.6ポイント上回った。</li> <li>○立体の構成要素から、立体を見分けることができるかどうかをみる問題では、正答率が県を10.2ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角定規や分度器、コンパスなどを用いて問題を解いたり、作図をしたりするプリントを用意したり、教科書の復習問題に取り組んだりするなど、意図的に使用する機会を増やし、理解を深めていく。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は県や市より高い。</li> <li>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる問題では、正答率が県を13.9ポイント上回った。</li> <li>●割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかどうかをみる問題では、正答率は県平均を上回っていたものの、47.1%と正答率は低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの数量の関係に着目して問題に取り組む際、それらの数量について児童が意欲的に問題に取り組めるよう、身の回りの事象における数値を用いるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は県や市より高い。</li> <li>○折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取ることができるかどうかをみる問題では、正答率が県平均を15ポイント上回った。</li> <li>○二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が県平均を12.1ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフの学習では、データの特徴や傾向を多面的に把握したり、事象を注意深く考察したりする等、問題解決の過程を意識するよう指導する。また様々な活動において、身の回りの事象をデータから捉え、問題解決場面に生かす活動を取り入れ、日頃より関心をもたせる指導をしていく。</li> </ul>